しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

25 住んで良かったと思える町へ

ご近所同士の助け合い

王子サポート隊

70歳以上一人暮らし、75歳以上夫婦世帯、70歳以上で障がい者のいる世帯を対象者とし、王子八幡町内会の地域住民に対する日々の見守り活動と、生活上のちょっとした困りごとに対応するボランティア活動を行っている。令和元年度より準備を始め、令和3年度より活動を開始。

取材協力者：（前列左より）岸田さん、合力さん、石井さん、（後列左より）田中さん、柴田さん、宮本さん

住民の生活に関する実態調査から生活支援の取り組みを検討

令和元年度に志免町社会福祉協議会が実施した「ふくしのまちづくりプロジェクト」（町内会単位で実態調査を行うことで地域の現状を知り、その結果から今後地域でできる支え合い活動や、他分野の活動者や企業などと協働して解決策を考えるプロジェクト）で買い物や生活全般に関するアンケートを実施したのが活動のきっかけです。アンケートの対象は70歳以上の一人暮らし、75歳以上の夫婦世帯、障がい者がいる世帯でした。対象者を戸別訪問したこともあり、アンケート回収率は97.8%でした。

日常生活での不安や困りごとに関しては、買い物、簡単な修理や電球交換、庭の草取りといったニーズがアンケート結果から見えてきました。この結果を受けて、サポート隊をつくろうという流れとなり、まず事務局を担う6名（町内会役員と兼務）を確保しました。その後、困りごとの再調査や隊員の募集を行いました。

令和3年度より活動を開始する予定でしたが、コロナ禍で実施できなくなりました。一方、この間に会議を重ねることができたので、良かった面もあります。そして本格実施は令和4年度からです。

地域住民が多様な活動に参加する王子八幡の特徴

王子八幡町内会は昭和42年に発足しました。坂道の多い地域で、現在は11の組（町内会の運営や情報伝達を円滑化するために設置された、区域を細分化した組合）に約690世帯が暮らしています。人口は増加傾向にありますが、高齢化率は約30%となっており、住民の高齢化は課題の一つです。ですので、地域の将来を見据えてサポート隊のような取り組みが必要だと考えました。

サポート隊の活動を実施するにあたって「隊員は集まるのか」という不安はありませんでした。町内にはシニアクラブ（新生会）や食生活改善推進会（食進会）といった別の活動もありますが、「私はこの活動だけ」といった人は少なく、同じ人達が中心となって、女性も男性も様々な活動に参加しているのが王子八幡の特徴です。公民館行事の参加率も

高く、こうした人達が町内の活動を支えていますから、サポート隊も同様に「よし、やろう」となりました。また誰がどういった得意分野を持っているのかを事務局がおおよそ把握していることも、サポート隊の活動を後押ししていると思います。

サポート隊員の中心は70代 得意なことを活かして活動中

令和5年9月1日現在のサポート隊員は、31名(事務局6名含む)です。内訳は男性15名、女性16名、年齢は20代～80代で、中心は70代です。70代といっても元気な今だからこそ、誰かの役に立ちたいと思って参加している人も多いようです。また町内会の各組に2名以上の隊員がいるという、非常にバランスの良い構成になっています。全ての組にサポート隊員がいることで「顔を知っている人だ」という依頼者の安心感に繋がっているのではないでしょうか。

隊員として様々な方が活躍中です。例えば元電気屋の岸田さん。多様な道具をお持ちなので、お願いできる作業が多く、事務局として助かっています。以前よりボランティア活動をされていて、誰かの役に立つのであればと引き受けていただいています。また町内会の青年部に所属している石井さんからは、自分にできる範囲で人の役に立つことがあれば、積極的にやっていきたいという声をいただいています。

頼みやすい環境づくりを目指し 有償→無償へ方向転換

サポート隊は王子八幡町内会とは別の組織として位置づけ、会計も別々にしています。活動開始当初は、内容によって100～500円を利用者から徴収する有償の取り組みとしていましたが、隊員からの声を踏まえて再検討し、現在は無償（材料費などの実費は利用者負担）としています。

隊員は全員ボランティア活動保険に加入し、活動は２人１組が原則で、必ずユニフォーム（民間の助成金を活用して調達）を着用します。依頼があったときは下見をして、何が必要か準備物などを事前に想定しておきます。またサポート隊で対応することが困難な場合は、代案を提示します。過去に一度想定外の申込みがあり、断る勇気を持つことを改めて認識しました。

▲活動の様子（草取り）

実績としては令和3年度が9件、４年度が18件、５年度（4月～現在）が7件で、内容はゴミ出しのお手伝いや草木の剪定などです。想定よりも少ないなと感じています。

活動の流れ：申込（電話可）→事務局受理→下見→実施可能か判断→活動者へ依頼→実施→報告書作成

ご近所同士が助け合う 「住んで良かった」と思える町へ

町内会に加入していない方、サポート隊と関係性のない方からの依頼は、これまでにほとんどありませんので周知の徹底が今後の課題です。またサポート隊の対象範囲を今後どこまで広げていくのか、サポート隊自体の高齢化をどうやって克服するかについても、この先向き合っていく必要があります。

将来的には、サポート隊を仲介せずとも、ご近所同士で助け合うことができる「住んで良かった」と思える町内会にしていきたいと思っています。

取材を終えて

日頃の関係性が、そのまま活動に繋がっている印象を受けました。課題にも挙がっているように関係性のない方々にまでどうやって活動の幅を広げていくのか、今後の活動にも注目したいと思いました。

■発行日：2023（令和5）年10月20日　■制作・編集：志免町まちづくり支援室
〒811-2244　福岡県糟屋郡志免町志免中央一丁目3番2号（生涯学習1号館内）